

大雨・洪水に備えましょう

連日、九州をはじめ各地で大雨・洪水による大きな被害について報道がされています。テレビやラジオから被害の様子を見聞きし、心が痛みます。被害を受けた方々、犠牲になられた方々とそのご家族の方々に心からお悔やみを申し上げます。

毎日の報道を見ていて気になる言葉があります。それは、被害に遭われた方々が「こんなことは初めて。」「考えたこともなかった。」という言葉です。確かにそのとおりのかもしれません。被害が起きた地域がハザードマップ上では“浸水想定区域”になっていたとしても^{※1}、住民にとっては、近所を流れる川が氾濫したことなど経験がなく、「まさかこの地域（川）が。」という思いだったのだと思います。しかし、結果的に今回の被害は起きてしまいました。

^{※1} 大きな被害を受けた人吉市の洪水ハザードマップを調べてみました。今回の球磨川の浸水域はハザードマップに示されていた浸水想定区域とほぼ一致していました。

さて、ここ吉田東部地区では、九州等で起きているこの災害・被害は起こらないのでしょうか。

「巨理町吉田地区の洪水・土砂災害防災マップ」を見ると、長瀬小学校は0.5m未満の浸水域にあります。

(このハザードマップは全戸に配布されていますので、是非確認していただきたいと思えます。ただし、このマップに表示されている長瀬小学校は旧長瀬小で、現在の長瀬小はその西側にあたります。)

学校の周りは0.5m未満、0.5m～1.0m未満の浸水域が広がり、学校の西側には1.0m～2.0m未満の浸水域もあります。右図で示すように、1.0m～2.0m未満とは、建物の1階天井付近の高さということになります。また、ハザードマップには、次のような説明が書かれています。



このマップについて

- この地図には、大雨によって阿武隈川が氾濫した場合に想定される浸水区域と、土砂災害の恐れのある箇所、避難施設などの防災施設を示しています。
- 洪水は、国土交通省が示した「阿武隈川水系阿武隈川下流(宮城県側)浸水想定区域図」、土砂災害は、宮城県の「土砂災害危険箇所」によるものです。
- 洪水浸水想定区域は、概ね150年に1回程度の大雨(岩沼基準点上流域の2日間総雨量252mm)が降ったことにより阿武隈川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
- この地図で示した浸水想定区域や土砂災害の恐れのある箇所以外でも浸水したり、土砂災害が発生したりする場合がありますので注意してください。

『もし巨理町で、今までにない降水量を記録したら…』、『もし阿武隈川が氾濫したら…』

考えたくはありませんが、最悪の事態が起きた時のための備えはしておかなければならないと思えます。是非、ご家族で「我が家で必要な備え」について確認しておきましょう。

指定避難場所について

災害が起きた時の指定避難場所を確認しましょう。災害の種類によって指定避難場所は異なります。

【津波】吉田小学校（浜吉田西・東・北，野地，開墾場）
巨理中学校（一本松，新丁，長瀬浜，大畑浜）

長瀬小学校は避難場所にはなりません。

【風水害】吉田小学校(全地区)

コロナウイルス等による感染拡大防止を考慮し、指定避難場所だけではなく、知人宅や親戚宅等の安全に避難できる場所も決めておきましょう。